

(様式2)

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育方針・学校経営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>◇教育方針や学校経営に関する項目で、「教育方針や指導に共感できる」についてA「よくあてはまる」B「ややあてはまる」という肯定的評価が保護者89.2%、「本校の教育方針や指導目標に賛成であり、本校を選んでよかったと思っている」生徒80.1、「学校は人間としての基本的な倫理観や規範意識を身につけさせようと努めている」保護者76.1%、生徒84.8%、「学校は自主性・創造性のある生徒を育てようとしている」保護者79.0%、と保護者・生徒からの評価が高い。一方、「全職員が学校経営や教育活動に創意を凝らし魅力ある学校づくりに取り組んでいる」については、保護者67.6%とやや評価が低く「わからない」という回答も24.4%と高い。課題研究発表会や学校祭、教育週間等のさまざまな機会をとらえて学校の様子を保護者に理解していただく必要がある。</p> <p>◇教職員に関する項目では、「子どもたちの教育に熱心に取り組んでいる」保護者75.4%、生徒86.0%、「専門的知識が豊富で授業内容について信頼できる」について保護者・生徒ともに約90%が肯定的評価であり、これまで同様学校や教職員への信頼が非常に厚いと言える。今後も、生徒の人間力の育成、生徒の学力充実や進路実現に向けた指導を、きめ細かに丁寧にもた自信を持ってすすめていきたい。</p> <p>◇学校独自項目の中の、「地域の人々や中学校等に学校の教育方針や教育活動の現状を周知している」「地域の学校として、地域に評価されるような教育活動や行事を行っている」については、「わからない」がどちらも昨年の40%からかなり減少したとはいえ、25～33%であり、依然として地域での活動や広報の工夫が必要である。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇特色ある学校づくり（魅力ある学校）</p> <p>◇開かれた学校づくり（地域との連携）</p> <p>◇教員研修の充実を図る（授業の改善と充実、教科指導・進路指導の充実、人間教育の充実）</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>◇職員会議や各種委員会、教科研究会等での十分な現状把握と共通理解に基づく改善と実践</p> <p>◇各分掌による綿密な教育計画と徹底した指導反省</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 授業及び諸行事の公開。SSH事業の取組・発表等の公開。</p> <p>(2) 学校情報の提供。</p> <p>(3) 授業研究会を始めとする職員研修。</p> <p>(4) 保護者懇談会及び学年懇談会。小中学校との連携。</p> <p>(5) SSH事業における小中学校との連携。</p>	<p>(1) 生徒、教員による授業アンケート・評価。</p> <p>(2) 新聞等記事掲載数や地域の評価と期待。</p> <p>(3) 普段の生活の姿の観察。生徒の学習に対する興味・関心の高まり。教員の自己評価、授業評価。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>(1) PTA総会、学校評議員会、SSH運営指導委員会、岐阜県ふるさと教育週間、PTA高校見学会等での授業公開。文化祭・体育祭の一般公開。</p> <p>(2) 新聞、市広報等への記事の提供。</p> <p>(3) 授業アンケートの実施。他教科の授業参観や教員の相互評価の実施。学校行事、教育相</p>	<p>① 保護者や地域からの学校への関心や期待。生徒の満足度や進路結果。</p> <p>② 規律ある生徒の姿や地域など校外で活躍する生徒の姿。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>

<p>談、情報教育、ホームルーム運営に関する校内研修会の実施。 (4) 各分掌主任による連絡会の定期実施。</p>	<p>③基礎学力の定着と職員の達成感。職員の意欲・継続的な授業改善、研修への参加。</p>	<p>Ⓐ B C D</p>
<p>11 成 果 ・ 課 題</p>	<p>○自己肯定感を持ち、仲間とともに互いに協力して学校生活を送る生徒の姿が普通に見られる。 ○生徒と教職員の信頼関係、保護者と教職員との信頼関係が根底にあり、相互理解ができています。 ○授業規律が確立し互いに協力し合い学習しており、その成果が期待できる。 ○教職員が熱心に研修に参加し授業改善を図り、高大接続等の教育状況を共通理解し教育活動全体に生かすよう努めている。 ○LHRの改善への取り組みにより、社会性をもち互いに協力する態度を醸成することができた。 ○安全で安心して学べる学習環境が整っている。 ○様々な取組が組織的かつ有機的に機能するための工夫ができた。 ▲SSH事業の一環としての活動やボランティア活動など、地域での活動の機会がやや少ない。 ▲学校の教育活動や生徒の様子について、中学校や地域の方々、保護者等への発信が少なく広報活動が十分とは言えない。</p>	<p>総 合 評 価 A Ⓑ C D</p>
<p>12</p>	<p>来年度に向けての改善方策案 ・職員研修をさらに充実し、変化する教育状況や生徒の実状を共通理解し、目指す学校像・育成する生徒像の実現に向け、授業をはじめとする教育活動全体の改善を図る。 ・理数科「課題研究」や普通科「総合的な学習の時間」などの本校の特長的な取組である探究学習についてさらに深化し、HPや地域での活動等の広報活動を充実させる。 ・地域での活動の拡大を図る。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成29年1月25日

<p>【意見・要望・評価等】 ・総じて落ち着いて学校運営がなされている。保護者及び生徒による評価を見ても高評価の項目が多く教育方針等が十分理解されていると思われる。 ・評価結果を見て、各職員も自己評価し努力し研修してもらい、さらに学校をよくしてほしい。 ・近年生徒が多様化してきているので、地元の人たちや保護者期待している学校、期待に応えられる学校にしてほしい。</p>
